

泊発電所3号炉審査資料	
資料番号	資料2
提出年月日	令和4年6月21日

泊発電所3号炉 ヒアリングにおける指摘事項に対する回答一覧表
(防潮堤の設計方針)

ID	No	項目	審査日	対応状況*	回答日	回答	反映資料
210902-01	1	プラント側の審査会合であることを踏まえ、各条文に対する確認事項は4条、5条のみを示すこと。	R3.9.2	回答済	R3.9.9 ヒアリング	資料の記載について適正化を図った。	第377回ヒアリング 資料「泊発電所3号炉 防潮堤の設計方針について」 p.13, 16, 19～21, 24～26, 29, 30
210902-02	2	前回(8/26)の指摘事項に対する回答の記載を充実化すること。 ・新設する防潮堤の構造選定理由 ・セメント改良土部と鋼製壁部の使い分けについて ・既存の防潮堤を残置することの悪影響の有無と対応方針	R3.9.2	回答済	R3.9.9 ヒアリング	令和3年8月26日審査会合における指摘事項について、資料の記載を充実化した。	第377回ヒアリング 資料「泊発電所3号炉 防潮堤の設計方針について」 p.5～11
210902-03	3	泊発電所の施設配置や地質構造を踏まえた防潮堤の構造選定の考え方について説明すること。	R3.9.2	回答済	R3.9.9 ヒアリング	施設の配置や地質構造を踏まえた防潮堤の構造選定の考え方(構造物の支持形式、施工方法、使用材料)を整理した。	第377回ヒアリング 資料「泊発電所3号炉 防潮堤の設計方針について」 p.5, 7～11
210902-04	4	断面図等を示したうえで、荷重の伝達を踏まえた各部材の役割について整理して示すこと。	R3.9.2	回答済	R3.9.9 ヒアリング	荷重の伝達を踏まえた各部材の役割を整理した。	第377回ヒアリング 資料「泊発電所3号炉 防潮堤の設計方針について」 p.56～74
210902-05	5	防潮堤端部の地山について、地震時の斜面安定性や津波の遡上による影響等を今後整理の上、説明すること。	R3.9.2	後日回答予定		防潮堤端部の地山における地震時の斜面安定性については、『基礎地盤及び周辺斜面の安定性評価』においてご説明する。 入力津波高さを踏まえた、津波防護の観点での地山の取扱い等については、『第5条_耐津波設計方針』においてご説明する。	
210902-06	6	人工岩盤を、難透水性を保持させることから地盤と区分した理由について整理し、今後説明すること。	R3.9.2	回答済	R3.9.9 ヒアリング	施設の配置や地質構造を踏まえた防潮堤の構造選定の考え方(構造物の支持形式、施工方法、使用材料)について整理した。	第377回ヒアリング 資料「泊発電所3号炉 防潮堤の設計方針について」 p.7
210902-07	7	人工岩盤とセメント改良土について、使用材料等の観点から使い分けについて整理すること。	R3.9.2	回答済	R3.9.9 ヒアリング	施設の配置や地質構造を踏まえた防潮堤の構造選定の考え方(構造物の支持形式、施工方法、使用材料)について整理した。	第377回ヒアリング 資料「泊発電所3号炉 防潮堤の設計方針について」 p.7
210902-08	8	液状化評価において、3号埋戻土の範囲においても1,2号埋戻土を用いることで保守的な評価となることを示すこと。また、3号埋戻土の液状化強度特性を考慮した影響を今後説明すること。	R3.9.2	後日回答予定		防潮堤の設計に用いる埋戻土の物性値は、『基礎地盤及び周辺斜面の安定性評価』においてご説明する。	
210902-09	9	解析用物性値の一覧表において、被覆ブロックや消波ブロック等を記載することについて、先行審査の状況を踏まえて考え方を示すこと。	R3.9.2	回答済	R4.3.3 審査会合	防潮堤前面の既設護岸および埋戻土は、役割を期待していないため、設置変更許可段階における防潮堤の構造成立性評価においてモデル化しないこととした。	第1032回審査会合 資料2「泊発電所3号炉 防潮堤の設計方針について」 p.30
210902-10	10	鋼製壁部の中央の断面も追加して示すこと。 防潮堤の断面選定の考え方について、説明すること。	R3.9.2	回答済	R4.1.24 ヒアリング	鋼製壁部の中央の断面図を資料に追加した。 設置変更許可段階における構造成立性評価断面について、地震時については、①要求機能、②間接支持する構造物の有無、③構造的特徴、④周辺状況を踏まえて選定し、津波時については、防潮堤に作用する津波荷重の大きさを整理した上で選定することを記載した。	第377回ヒアリング 資料「泊発電所3号炉 防潮堤の設計方針について」 p.8, 10, 36 第379回ヒアリング 資料「泊発電所3号炉 防潮堤の設計方針について」 p.34～35
210902-11	11	他サイトとの比較において、最新の概要図を用いること。	R3.9.2	回答済	R3.9.9 ヒアリング	先行審査の最新資料を確認し、資料の適正化を図った。	第377回ヒアリング 資料「泊発電所3号炉 防潮堤の設計方針について」 p.76～78

*: 検討状況・方針等のみをご説明の場合は、「一部説明」という用語で識別する。

泊発電所3号炉審査資料	
資料番号	資料2
提出年月日	令和4年6月21日

泊発電所3号炉 ヒアリングにおける指摘事項に対する回答一覧表
(防潮堤の設計方針)

ID	No	項目	審査日	対応状況*	回答日	回答	反映資料
210902-12	12	人工岩盤について、岩盤傾斜等を踏まえ、不陸整正やセメント改良土の支持岩盤としての役割について、地質断面図と合わせて整理すること。	R3.9.2	回答済	R4.1.24 ヒアリング	施設の配置や地質構造を踏まえた防潮堤の構造選定の考え方(構造物の支持形式、施工方法、使用材料)について整理した。	第377回ヒアリング 資料「泊発電所3号炉 防潮堤の設計方針について」 p.7～11
						代表的な断面において、岩盤傾斜及び岩盤不陸を人工岩盤に置き換える範囲を記載した。	第379回ヒアリング 資料「泊発電所3号炉 防潮堤の設計方針について」 p.28～33
210902-13	13	鋼製壁部において、取放水路との間の埋戻土の支持力に期待していないことを説明すること。	R3.9.2	回答済	R3.9.9 ヒアリング	施設の配置や地質構造を踏まえた防潮堤の構造選定の考え方(構造物の支持形式、施工方法、使用材料)について整理した。	第377回ヒアリング 資料「泊発電所3号炉 防潮堤の設計方針について」 p.9,10
210902-14	14	鋼製壁部において、埋戻土のゆすり込み沈下や津波の繰り返しの来襲による洗堀等を考慮した場合でも止水性を維持できることを説明すること。	R3.9.2	回答済	R4.1.24 ヒアリング	鋼製壁部をセメント改良土による堤体構造に設計変更し、セメント改良土により確実な止水性を確保することを記載した。	第379回ヒアリング 資料「泊発電所3号炉 防潮堤の設計方針について」 p.5～8,12
210902-15	15	鋼製壁部の人工岩盤上の設置位置の考え方を示すこと。	R3.9.2	回答済	R4.1.24 ヒアリング	セメント改良土による堤体構造において、構造成立性評価に対する裕度を確保できなくなった場合、基準津波の策定に影響する防潮堤の前面位置を変更せず、追加の裕度向上対策で対応可能であることを記載した。	第379回ヒアリング 資料「泊発電所3号炉 防潮堤の設計方針について」 p.82
210902-16	16	新設防潮堤の設置に伴って変更となった1.0m盤へのアクセスルートを防潮堤の資料に図示すること。	R3.9.2	回答済	R3.9.9 ヒアリング	新設防潮堤の設置に伴い変更となる屋外アクセスルートの図を示す。	第377回ヒアリング 資料「泊発電所3号炉 防潮堤の設計方針について」 p.80
210902-17	17	既設防潮堤の損傷による影響の考慮について、方針を示すこと。	R3.9.2	回答済	R3.9.9 ヒアリング	既設防潮堤の損傷による影響の考慮について説明する。	第377回ヒアリング 資料「泊発電所3号炉 防潮堤の設計方針について」 p.5
210909-01	18	1,2号取放水路直上の埋戻土に期待する役割について示すこと。	R3.9.9	回答済	R3.9.30 審査会合	鋼製壁部(横断部)について、津波の流入に対する埋戻土の役割が明確になるよう、記載を適正化する。	第1007回審査会合 資料2「泊発電所3号炉 防潮堤の設計方針について」 p.22～25,34,64,66,68
210909-02	19	概略図について、設計の考え方を明らかにし、設計方針と相違がないよう適正化すること。	R3.9.9	回答済	R3.9.30 審査会合	防潮堤やその周辺状況を踏まえたうえで、概略図への説明を補足する。	第1007回審査会合 資料2「泊発電所3号炉 防潮堤の設計方針について」 p.8,10,11,17,22,27,59,61,65,67,71,73
210909-03	20	人工岩盤の有無の理由を明らかにするとともに、図示すること。	R3.9.9	回答済	R4.1.24 ヒアリング	岩盤上に設置する人工岩盤について、設置の有無とその理由を整理するとともに図面を適正化する。	第1007回審査会合 資料2「泊発電所3号炉 防潮堤の設計方針について」 p.7,8
						代表的な断面において、岩盤傾斜及び岩盤不陸を人工岩盤に置き換える範囲を記載した。	第379回ヒアリング 資料「泊発電所3号炉 防潮堤の設計方針について」 p.28～33
210909-04	21	鋼製壁(取合部)が1本の杭で支持していることを図示すること。	R3.9.9	回答済	R3.9.30 審査会合	構造が明確となるよう、図面を適正化する。	第1007回審査会合 資料2「泊発電所3号炉 防潮堤の設計方針について」 p.11
210909-05	22	既存防潮堤において、地震による損傷の有無、その後の津波作用による影響について説明すること。	R3.9.9	本日回答		残置する既存防潮堤は、地震により損傷した場合の波及的影響を定量的に評価することが困難という判断に至ったことから撤去する設計に変更したため、新設する防潮堤への影響はなくなる。	資料「泊発電所3号炉 防潮堤の設計方針について」 p.23～24
210909-06	23	人工岩盤および1,2号取放水路側部の間の埋戻土の考え方について説明すること。	R3.9.9	回答済	R4.1.24 ヒアリング	当該部について、施工上の配慮から埋戻土としてのご説明する。	第1007回審査会合 資料2「泊発電所3号炉 防潮堤の設計方針について」 p.10
						鋼製壁部をセメント改良土による堤体構造に設計変更した結果、1,2号取水路及び1,2号放水路側部の埋戻土はセメント改良土となることを構造概要図に反映した。	第379回ヒアリング 資料「泊発電所3号炉 防潮堤の設計方針について」 p.7～8,12

*: 検討状況・方針等のみをご説明の場合は、「一部説明」という用語で識別する。

泊発電所3号炉審査資料	
資料番号	資料2
提出年月日	令和4年6月21日

泊発電所3号炉 ヒアリングにおける指摘事項に対する回答一覧表
(防潮堤の設計方針)

ID	No	項目	審査日	対応状況*	回答日	回答	反映資料
210909-07	24	地質断面図については、縦断面等により、現状および防潮堤設置後の両方を示すこと。	R3.9.9	回答済	R4.1.24 ヒアリング	防潮堤設置前後の縦断面及び代表的な断面において、岩盤傾斜及び岩盤不陸を人工岩盤に置き換える範囲を記載した。	第379回ヒアリング 資料「泊発電所3号炉 防潮堤の設計方針について」 p.25～33
210909-08	25	荷重図は構造を踏まえ正確に図示すること。	R3.9.9	回答済	R3.9.30 審査会合	防潮堤の構造および作用する荷重を踏まえたうえで、正確に整理する。	第1007回審査会合 資料2「泊発電所3号炉 防潮堤の設計方針について」 p.57～74
210909-09	26	セメント改良土部と鋼製壁部の取合いについて、図示すること。	R3.9.9	回答済	R3.9.30 審査会合	当該部にセメント改良土部を追加することにより、図面を適正化する。	第1007回審査会合 資料2「泊発電所3号炉 防潮堤の設計方針について」 p.9～11, 21, 26
210909-10	27	取合部等の構造境界が止水性等の観点から弱部とならないことを示すこと。	R3.9.9	回答済	R4.1.24 ヒアリング	鋼製壁部をセメント改良土による堤体構造に設計変更した結果、セメント改良土と鋼製壁部の接続はなくなることを構造概要図に反映した。	第379回ヒアリング 資料「泊発電所3号炉 防潮堤の設計方針について」 p.5～8, 12
210909-11	28	既存防潮堤を残置することによる屋外アクセスルートへの影響を説明すること	R3.9.9	回答済	R3.9.30 審査会合	既存防潮堤が地震や津波により損壊しても、アクセスルートに影響を与えないことを説明する。	第1007回審査会合 資料2「泊発電所3号炉 防潮堤の設計方針について」 p.80
220124-01	29	審査会合の指摘事項並びに防潮堤の設計方針及び構造成立性における複数の説明項目について、基準地震動、基準津波、地盤物性値等が確定していない状況を踏まえ、第3条、第4条、第5条に係る適合性審査の関係性を考慮した上で、全体としての説明順序の考え方を整理して説明すること。	R4.1.24	回答済	R4.2.14 ヒアリング	資料冒頭において今回(2月14日ヒアリング)の説明主旨を示した上で、目次で示す各説明項目に対して主旨との関係、説明時期について記載することで説明順序を示す。	第380回ヒアリング 資料「泊発電所3号炉 防潮堤の設計方針について」 p.22～24
220124-02	30	液化強度特性について、液化化影響を受ける対象施設の抽出、調査位置の代表性及び網羅性並びに追加試験の必要性を、先行審査の状況を踏まえて、4条耐震設計方針として整理し、説明すること。	R4.1.24	一部説明済		液化化試験結果等は、『第4条_耐震設計方針』において説明する表現に資料を修正する。	第380回ヒアリング 資料「泊発電所3号炉 防潮堤の設計方針について」 p.68
220124-03	31	人工岩盤について、期待する役割を整理した上で、設置許可基準への適合上の位置付け及び解析用物性値の設定に係る考え方を説明すること。	R4.1.24	本日一部説明		防潮堤の各部位の施設区分の根拠を明確にした上で、人工岩盤は、コンクリートの物性値を期待してすべり安定性を確保する役割を期待することから、施設として整理した。解析用物性値の設定に係る考え方は、今後説明する。	資料「泊発電所3号炉 防潮堤の設計方針について」 p.20～22, 66～69
220124-04	32	設置変更許可段階における防潮堤の構造成立性評価断面について、敷地の状況を踏まえた上で、断面選定の考え方とともに断面選定結果を整理して説明すること。	R4.1.24	本日一部説明		地震時及び津波時における構造成立性評価断面の選定の考え方を整理した。断面選定の経緯及び選定した構造成立性評価断面は、今後説明する。	資料「泊発電所3号炉 防潮堤の設計方針について」 p.94～95
220124-05	33	防潮堤の1、2号取・放水路横断部をセメント改良土による構造に変更することに伴う悪影響を整理して説明すること。	R4.1.24	後日回答予定		1,2号取・放水路横断部をセメント改良土構造にすることによる影響を整理し、今後ご説明する。	
220124-06	34	防潮堤の平面線形について、防潮堤の役割、構造、敷地の形状等を踏まえ、当該形状とした考え方を整理して説明すること。	R4.1.24	本日回答		防潮堤の構造成立性に影響を及ぼす要因を基礎岩盤の特徴、近接する構築物の有無、屈曲部の影響等の観点から整理し、各要因に対して、構造成立性を確保するための対策を整理した。	資料「泊発電所3号炉 防潮堤の設計方針について」 p.15～16
220124-07	35	防潮堤の位置、構造を変更することによる基準適合方針への影響確認は、結果だけでなく、変更前の防潮堤において防護としていた構造物や敷地外からのアクセス確保などの考え方と比べた場合のメリット、デメリットなども含めて、具体的にどのような確認を行ったのかについても説明すること。	R4.1.24	回答済	R4.2.14 ヒアリング	防潮堤の位置、構造を変更することによる他条文・項目の基準適合方針への影響確認について、どのような確認を行ったのか分かるよう検討プロセスを示し、防潮堤側へ与える影響について確認した。確認の結果、条文・項目の基準適合方針に影響するものがあるが、設計又は運用の変更により対処できるため、防潮堤の設計方針に影響を与えないことを確認した。	第380回ヒアリング 資料「泊発電所3号炉 防潮堤の設計方針について」 p.9～18

*：検討状況・方針等のみをご説明の場合は、「一部説明」という用語で識別する。

泊発電所3号炉審査資料	
資料番号	資料2
提出年月日	令和4年6月21日

泊発電所3号炉 ヒアリングにおける指摘事項に対する回答一覧表
(防潮堤の設計方針)

ID	No	項目	審査日	対応状況*	回答日	回答	反映資料
220124-08	36	「今後説明予定」等としている指摘事項のうち、防潮堤の位置、構造、設計方針に影響を及ぼす可能性のあるものについては、具体的な説明時期を示すとともに、個別条文への適合性の中での説明ではなく、防潮堤の構造・仕様及び設計方針の検討の中で説明すること。	R4.1.24	回答済	R4.2.14 ヒアリング	「今後説明予定」としている内容に対応する条文がわかるように資料の記載を修正する。各条文における説明時期については、コメントNo29において説明する。	第380回ヒアリング 資料「泊発電所3号炉 防潮堤の設計方針について」 p. 33, 45, 63, 66, 68, 69
220124-09	37	令和3年8月26日の審査会合において示した主なプラント側審査項目の説明スケジュールについて、現在の審査の進捗状況を踏まえたスケジュールを示すこと。	R4.1.24	回答済	R4.2.14 ヒアリング	今回(2月14日ヒアリング)、防潮堤の設計方針に係る資料で目次として示す各項目に対して説明時期を記載するのに合わせ、審査の現状を踏まえたプラント側審査項目の説明スケジュールを添付した。	第380回ヒアリング 資料「泊発電所3号炉 防潮堤の設計方針について」 p. 25
220214-01	38	セメント改良土の目地における止水性能について、先行プラントにおける審査実績がないことを踏まえ、止水部やその固定部を再現したモックアップ試験を実施するなど、成立性に関する方針を整理して説明すること。	R4.2.14	本日一部説明		今回、止水目地の構造概要を説明する。 止水目地の仕様、固定方法、止水性能に関する検討方針(試験計画を含む)及び構造成立性は、今後説明する。	資料「泊発電所3号炉 防潮堤の設計方針について」 p. 17, 74
220214-02	39	セメント改良土へ津波が作用することによる洗堀等の止水性への影響について、セメント改良土の構築方法と強度の観点を踏まえ、耐津波設計方針において整理して説明すること。	R4.2.14	後日回答予定		セメント改良土の耐洗堀性等の観点による止水性への影響及び構築方法は、今後説明する。	
220214-03	40	防潮堤への漂流物の影響について、防潮堤前面に入構に使うルートや駐車場がある場合、車両(保安パトロール車含む)が漂流物となり得ることから、発電所での車両の緊急退避の運用を含め、耐津波設計方針において整理して説明すること。	R4.2.14	本日一部説明		<p>保守事務所および訓練棟を撤去する設計に変更したことに伴い、事務所などの駐車場についても駐車場としての運用を中止するとともに、新設する防潮堤へ波及的影響を及ぼさないよう防潮堤乗り越え道路についても新たに設置せず、発電所への入構ルートを防潮堤に及ぼさない配置とした設計に変更する。</p> <p>今後、業務用車両等の漂流物影響については、防潮堤構造設計として見込む衝突荷重を超えないよう対策・運用を講じる方針であり、漂流物調査方針、調査結果、漂流防止のための対策・運用等を含め、『第5条_耐津波設計方針』においてご説明する</p>	資料「泊発電所3号炉 防潮堤の設計方針について」 p. 23～24
220214-04	41	防潮堤の平面線形形状を、屋外アクセスルートの乗り越え道路等の複数の項目を考慮した上で決定していることについて、津波防護の観点から設定した項目の優先順位を踏まえ、当該形状とした合理的な理由を整理して説明すること。	R4.2.14	本日回答		<p>3/3 審査会合にて審査会合指摘No. 8の回答として、防潮堤線形の決定にかかる考慮事項の優先順位及び津波防護の観点を第一優先として防潮堤の平面形状を設計していることをご説明した。 これに対し、3号取水路上部付近の平面形状が防潮堤設計に悪影響を与えないこと、周囲の地質及び防潮堤の構造を整理し優先順位との関係を説明することについて改めて指摘をいただいた。 現在計画の防潮堤線形は、残置するとしていた防潮堤の撤去及び防潮堤乗り越え道路を設けない設計に変更した。 当該設計変更により、津波防護施設としての機能のみを考慮し、入構ルートについても防潮堤に影響しないルートとして新たに設計した。 これに伴い、他条文要求に適合させるための設計変更(線形の変更)が必要ないことについて、本日ご説明する。 また、防潮堤へ影響を及ぼす構造物を排除することにより、地下構造物との干渉、端部の接続位置等の防潮堤構造のみを考慮して線形を決定することができるが、乗り越え道路の設置を考慮した現線形は、津波防護施設としての機能を満足する線形であること、及び当該線形を津波解析条件としていることから、現状において現線形を変更しないこととする対応については審査を合理的に進める観点で合理的であると考える。</p>	資料「泊発電所3号炉 防潮堤の設計方針について」 p. 15, 25～43

*: 検討状況・方針等のみをご説明の場合は、「一部説明」という用語で識別する。

泊発電所3号炉審査資料	
資料番号	資料2
提出年月日	令和4年6月21日

泊発電所3号炉 ヒアリングにおける指摘事項に対する回答一覧表
(防潮堤の設計方針)

ID	No	項目	審査日	対応状況*	回答日	回答	反映資料
220214-05	42	防潮堤の平面的な屈曲部における三次元的な地震時挙動に対する影響評価方針について、整理して説明すること。	R4.2.14	本日回答		防潮堤の屈曲部における悪影響として考えられる3次元的な挙動への配慮として、屈曲部に配慮した目地を設置する。設置許可段階においては、2次元断面による評価を実施し、設計及び工事計画認可段階において3次元的な評価を実施する。	資料「泊発電所3号炉 防潮堤の設計方針について」 p.18～19
220214-06	43	防潮堤の平面線形形状を現在の形状から変更することによるメリット・デメリットについて、発電所の運用上確保としている構内道路や海側のアクセスルート、新設する防潮堤の外側にある建屋の悪影響を含め、防潮堤の平面線形形状を確定する上で考えられる要素を漏れなく整理して説明すること。	R4.2.14	本日回答		防潮堤平面線形形状を確定する要素として項目は、以下の4つの要素と考えている。 ①防潮堤としての津波防護機能・構造成立性 ②確定した平面線形形状にて他条文の適合方針の成立性 ③明示的な条文要求以外の発電所運用性 ④工事施工性を含めた工程 現設計方針として、防潮堤構造成立性への影響が懸念される新設防潮堤外側に位置する残置防潮堤及び保修事務所・訓練棟は撤去する方針に変更したことにより、①の要素を成立させるためのデメリットは解消し、①機能・構造を成立させた④工程によるメリットが得られると考えている。 一方、新設防潮堤外側に位置する残置防潮堤の撤去により③の発電所運用性を成立させるための入構路等の新規設置が必要となるデメリットが生じたことから、新たな入構ルート等の発電所運用に必要なインフラ条件を設定し③の成立と新たな設計において②の成立性を網羅的に確認し、防潮堤線形形状に影響することなく成立の見通しがあることを確認した。 以上を踏まえ、防潮堤線形形状にて構造設計として考慮すべき事項を網羅的に抽出し、考慮すべき要素について現在計画する防潮堤線形形状の成立の見通しがあることをご説明する。	資料「泊発電所3号炉 防潮堤の設計方針について」 p.15, 25～43
220214-07	44	例えば防潮堤と埋戻土との境界部におけるアクセスルートの通行性確保に関する方針など、防潮堤の位置、構造及び設計方針に影響を与える可能性があるものについては、個別条文への適合性に係る説明ではなく、防潮堤の構造・仕様及び設計方針の検討の中で整理して説明すること。	R4.2.14	本日回答		設置許可基準規則の条文及び重大事故等防止技術的能力基準の項目（以下、「各条文」という）への防潮堤再構築に伴う変更による影響を網羅的に確認し、新設する防潮堤を前提として各条文の基準適合性の見直しを確認する評価を行った。評価にあたっては、今後の防潮堤の設計進捗に伴う追加の裕度向上対策（防潮堤幅の変更）を実施する可能性も考慮した。 評価の結果、今後、各条文から遡って防潮堤の平面線形形状（海側）に影響を与えることはないことを確認した。	資料「泊発電所3号炉 防潮堤の設計方針について」 p.25～43, 117～156
220214-08	45	既存防潮堤を残置して道路として計画している部分は、津波により使用できなくなり、代替ルート（高台等の他ルート）により発電所までの参集が可能であるとしているが、外部からの支援を受けられる方針について、基準適合性の観点から整理して説明すること。	R4.2.14	本日回答		以下に示す複数の構内入構ルートを整備することにより、燃料及び資機材を車両等にて発電所構内に輸送が可能であること、並びに要員の参集が可能であることから基準適合性に影響はない。 ・津波の影響を受けない既存の構内入構ルート ・防潮堤の再構築に伴い変更した発電所構内への入構ルート なお、重大事故等発生時に初期対応として必要な協力会社社員及び事象発生後7日間の活動に必要な燃料及び資機材は、防潮堤内側や高台の待機場所/保管場所に常時待機/配備している。また、外部からの支援は、プラントメーカー、発電所構外の協力会社、原子力緊急事態支援組織、他の原子力事業者から事象発生後6日間までに支援を受けられる体制を整備している。	資料「泊発電所3号炉 防潮堤の設計方針について」 p.39, 151～152
220214-09	46	残置する既存防潮堤の耐津波設計に及ぼす影響検討フローにおいて、瓦礫や泥水による影響評価方針を具体的に説明するとともに、評価方針の妥当性を整理して説明すること。	R4.2.14	本日回答		残置する既存防潮堤は、地震により損傷した場合の波及的影響を定量的に評価することが困難という判断に至ったことから撤去する設計に変更したため、新設する防潮堤への影響はなくなる。	資料「泊発電所3号炉 防潮堤の設計方針について」 p.23～24

*：検討状況・方針等のみをご説明の場合は、「一部説明」という用語で識別する。

泊発電所3号炉審査資料	
資料番号	資料2
提出年月日	令和4年6月21日

泊発電所3号炉 ヒアリングにおける指摘事項に対する回答一覧表
(防潮堤の設計方針)

ID	No	項目	審査日	対応状況*	回答日	回答	反映資料
220214-10	47	残置する既存防潮堤の耐津波設計に及ぼす影響検討において、想定される影響の選定プロセスを示した上で、抽出された影響を網羅的に整理して説明すること。	R4.2.14	本日回答		残置する既存防潮堤は、地震により損傷した場合の波及的影響を定量的に評価することが困難という判断に至ったことから撤去する設計に変更したため、新設する防潮堤への影響はなくなる。	資料「泊発電所3号炉 防潮堤の設計方針について」 p.23～24
220214-11	48	新設する防潮堤の外側にある建屋が津波等によって倒壊し漂流物となった場合における新設する防潮堤への影響について整理して説明すること。	R4.2.14	本日回答		新設する防潮堤の外側に位置する保修事務所及び訓練棟については、倒壊し漂流物として新設する防潮堤に波及的影響を与えないよう撤去する設計に変更したため、新設する防潮堤への影響はなくなる。	資料「泊発電所3号炉 防潮堤の設計方針について」 p.23～24
220214-12	49	有効応力解析のモデルについて、既設護岸に役割を期待しないとする設計上の前提条件との整合性の観点で既設護岸等のモデル化方針の妥当性を整理して説明すること。	R4.2.14	回答済	R4.3.3 審査会合	防潮堤前面の既設護岸および埋戻土は、役割を期待していないため、設置変更許可段階における防潮堤の構造成立性評価においてモデル化しないこととした。	第1032回審査会合 資料2「泊発電所3号炉 防潮堤の設計方針について」 p.30

*: 検討状況・方針等のみをご説明の場合は、「一部説明」という用語で識別する。